

HCC Best Practice



山口大学大学院医学系研究科消化器・腫瘍外科学教室における肝細胞癌治療の取り組み
**腹腔鏡手術を第一選択とした肝切除術を主に、
肝移植や癌ペプチドワクチン療法なども選択肢として整備し、
生存率の向上をめざす**



Interview

永野 浩昭 先生

山口大学大学院医学系研究科 消化器・腫瘍外科学教室 教授

山口大学大学院医学系研究科消化器・腫瘍外科学教室の歴史は、1951年7月、同大学外科学講座が第一講座と第二講座の二講座制になった際に開講した外科学第二講座(旧)に始まる。これまでに岡村 正教授、徳岡俊次教授、石上浩一教授、鈴木 徹教授、岡 正朗教授(現山口大学学長)ら5人の教授が同教室の発展に貢献するとともに、山口における消化器外科、乳腺・内分泌外科の中核病院として地域の医療を担ってきた。

開講65年目を迎えた2015年3月、永野浩昭先生が第6代教授に就任。以来、これまでの教室の歴史と伝統に新たな独自性を加えて、患者のためにある“医療”，研究者とともに歩む“医学”，若い医師の未来と可能性を十二分に発展させる“教育”の三本柱で教室のさらなる飛躍をめざしている。その治療の実際と今後の展望について、永野先生からお話を伺った。

山口大学大学院医学研究科 消化器・腫瘍外科学教室の概要

従来、山口大学では、心臓・血管外科、呼吸器外科、小児外科などを外科学第一講座(旧)が、消化器外科、乳腺・内分泌外科を外科学第二講座(旧)が担当していた。現在、消化器・腫瘍外科学教室は後者の流れを汲み、消化器外科では食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肝臓、

胆道、膵臓、脾臓、ヘルニア、痔核などを、乳腺・内分泌外科では乳腺、甲状腺、副甲状腺を対象疾患とし、手術・化学療法を含めた集学的治療を行っている。入院件数は年間900件以上、手術件数は年間500件以上にのぼる。

1. 診療体制

これまでの教室の伝統や歴史を尊重しながらも、永野先生がまず行ったのが診療体制の改革だ。教授就任当